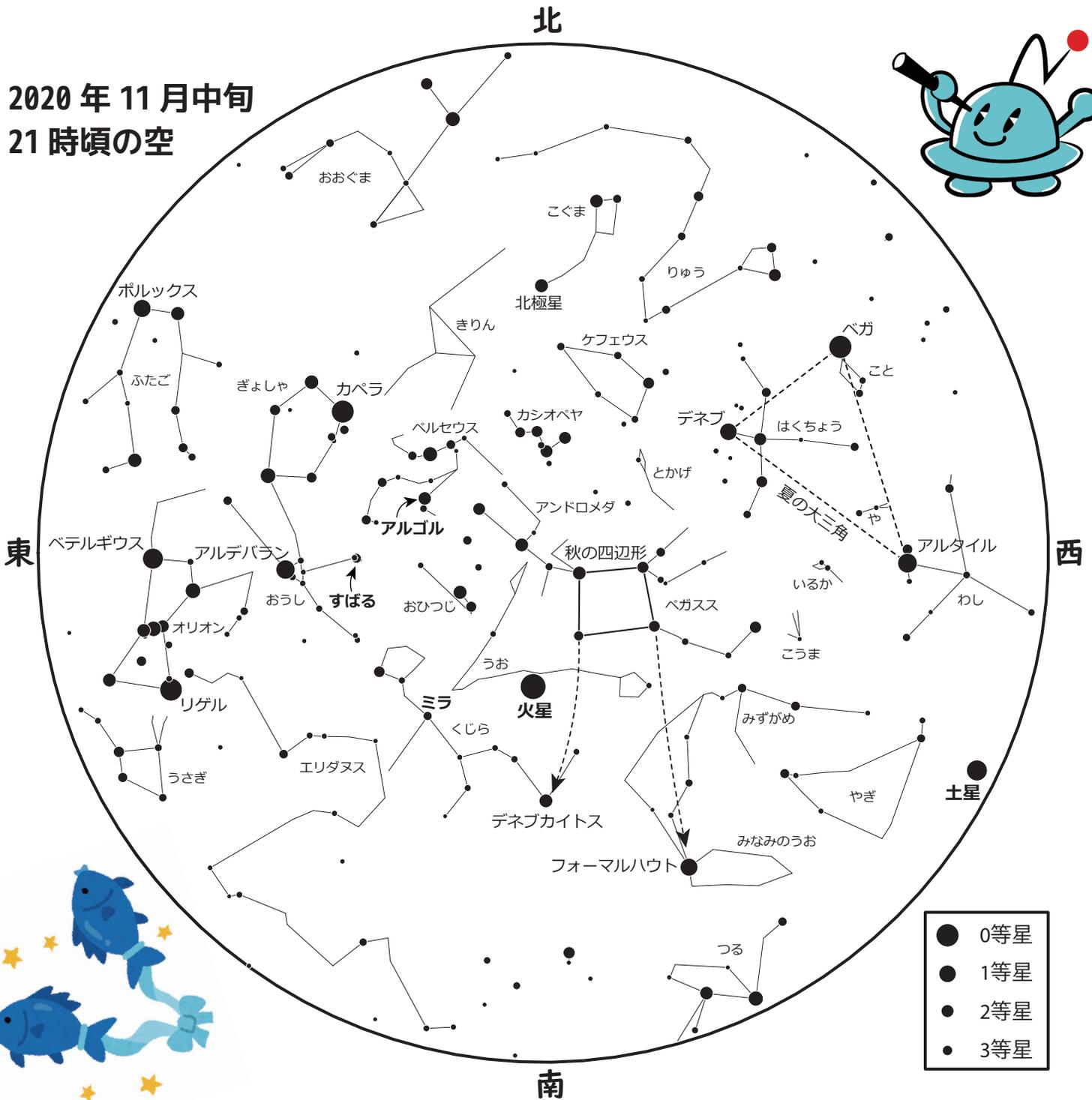
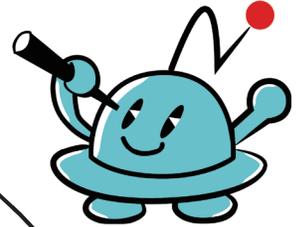


11月の星空案内

2020年11月中旬
21時頃の空



秋も深まる11月。夜空を見上げれば2～3等の星からなる『秋の四辺形』が見えています。秋の四辺形はこの時期に見やすい星を探す目印にもなります。西側の辺を南のほうへ延ばしていくと秋の唯一の1等星フォーマルハウト（みなみのうお座）、一方で東側の辺を南のほうへ延ばしていくと2等星デネブカイトス（くじら座）を見つけることができます。フォーマルハウトはアラビア語の「魚の口」に由来し、日本では地域によって「ヒツツボッサン」（静岡県）や「アキボシ」（岩手県）と呼んでいたそうです。なお10月6日（約二年ぶり）に地球と最接近した火星は、少しずつ暗くなっていますが、まだ今月も赤い輝きが目にとまることでしょう（約-2～-1等星）。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて【毎週土曜日開催 / 18時～, 19時～, 20時～】

阿南市科学センター

電話 0884-42-1600

<http://ananscience.jp/science/>

11月の月の満ち欠けと惑星について



下弦
8日



新月
15日



上弦
22日



満月
30日

11月の天体観望会で月が見える日時は？



11/21(土)・・・全ての回で観察可



11/28(土)・・・全ての回で観察可

水星：11月11日夜明け前、東の空ごく低空で観察しやすい（西方最大離角）。【約-0.5等】

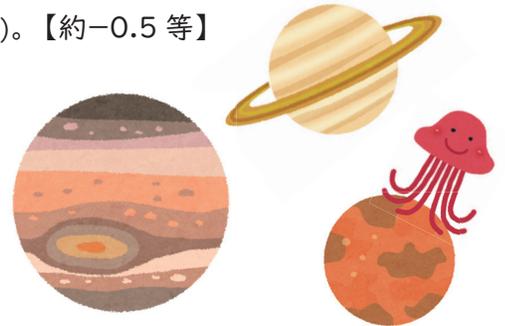
金星：夜明け前、東の低空で見える（明けの明星）。【約-4.0等】

火星：宵の口から東よりの空で見える。【約-1.7等】

木星：宵の口から南西寄りの低空で土星と並んで見える。【約-2.1等】

土星：宵の口から南西寄りの低空で木星と並んで見える。【約0.6等】

※各惑星の等級は中旬頃の明るさ。水星のみ11日の明るさ。



注目の天文現象など

【悪魔の星アルゴルをしてみよう】

ペルセウス座で輝く「悪魔」の異名を持つ**アルゴル**は、明るさが変わる星（**変光星**）として有名な天体です。普段は2.1等という明るさですが、ときどき3.4等まで暗くなります。この星は二つの星が周りあう連星として知られ（軌道周期約2.87日）、一方の星がもう片方の星を隠す「**食（しょく）**」という現象で明るさが変化します。ひとたび食が起こると約5時間かけて暗くなり、また5時間くらいかけて元の明るさに戻ります。

11月は7日20時51分、27日22時34分、30日19時22分に最も暗くなります。一晩中観察するのは長丁場になり大変なので、はじめのうちは前日などに元の明るさを見て覚えておくと良いでしょう。

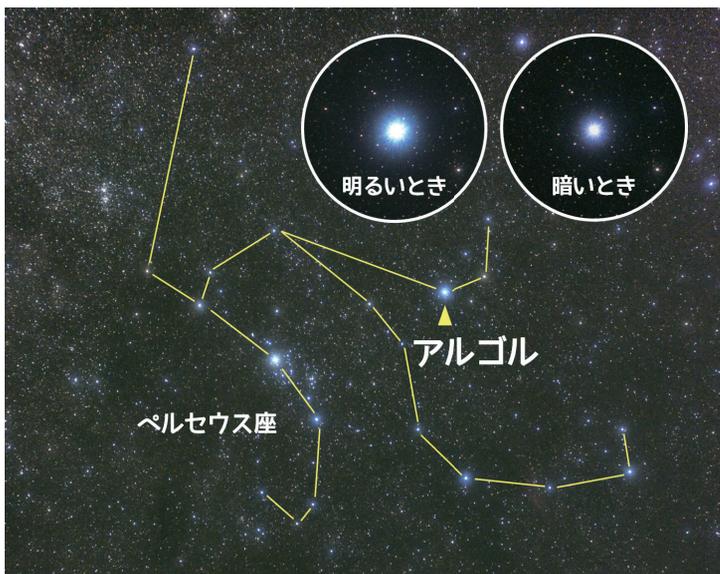


図1：ペルセウス座のアルゴル / 明るいときと暗いときの違い。
（撮影：阿南市科学センター / K. Imamura）

【はやぶさ2 ～リュウグウからの帰還間近～】

はやぶさ2は2014年12月に打ち上げられた日本の小惑星探査機です。先代の**はやぶさ**は小惑星イトカワから微細な欠片を地球に紆余曲折を経て持ち帰ったことで（サンプルリターン）、多くの人々の関心を集めました。その後継機である**はやぶさ2**は**小惑星リュウグウ**（図2）へと旅立ち、2018年6月頃に目的地へ到着。様々な予備観測やシミュレーションを繰り返し、2019年には探査機のリュウグウへのタッチダウン（サンプル採取）が成功したと言われています。はやぶさ2は昨年11月13日に小惑星を離れ、現在は竜宮城からお宝を地球に持ち帰っているところ。今年12月6日には玉手箱（カプセル）を宇宙から地球に再突入させる予定となっています。

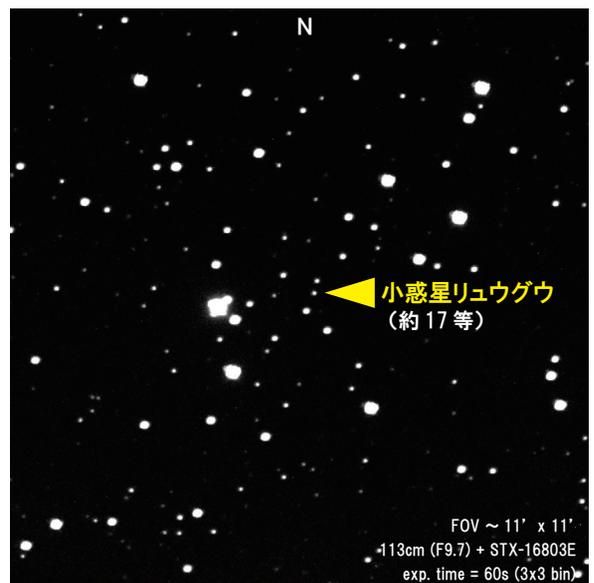


図2：2020年10月14日22:12頃、四国最大の望遠鏡で捉えた小惑星リュウグウ。（撮影：阿南市科学センター / K. Imamura）